

ギャップイヤー・ボランティアの受入れについて (2018年度)

(日本ボランティア学習協会)

イギリスの国際ボランティア機関『Project Trust』から派遣される、「ギャップ・イヤー」(Gap Year 2016-2017)の青年たち8名が、9月に来日の予定です。ボランティアは、東京での2日間の事前研修の後、2019年8月までの1年間、英語教育支援や国際理解教育への支援活動を行います。

今年度も、北海道洞爺湖町(北海道)、順天中・高等学校(東京都)、一燈園(燈影学園)：(京都府)、昭和女子大学(東京都)に活動先の提供をお願いする予定です。

この事業は、1990年に日本青年奉仕協会(JYVA)によって日本で初めて受け入れが開始されたもので、現在では日本ボランティア学習協会が日本での受け入れ窓口となっています。これまで、イギリスの大学入学直後の若者約100名が活動してきました。

ボランティアたちは、それぞれの受入れ先で2人一組で活動。活動内容は、幼稚園、小・中・高校などでの英語教育や国際理解教育支援、社会教育施設での英会話講座や異文化理解教育、さらには、地域社会における非営利組織での多文化共生活動への支援など、多様な活動ニーズに応じています。

日本ボランティア学習協会は、設立以来、日本における「ギャップ・イヤー」制度の実現化への提案を行ってきました。イギリス『Project Trust』によれば、若者たちの日本でのボランティア活動への関心は高いようです。

本協会としては引き続き、2019年9月から受け入れていただく新規活動先を募集しています。

この事業の普及拡大に向けて、とくに会員の皆さまのご協力をお願いします。また、活動現場の訪問見学も可能です。受け入れ条件などの詳しいことは、興柁代表理事：昭和女子大学(koroki@swu.ac.jp)までお問い合わせください。

